

新刊書紹介

『免疫学者のパリ心景—新しい「知のエティック」を求めて』

矢倉英隆

医歯薬出版 ¥3,960

本書は純粋に医学書ではない。むしろ哲学書である。しかし、科学と哲学の創造的関係を認識することは医学認識に極めて重要と考えられるので本書を紹介する。

著者は 72 年に卒業後に博士課程に進み爾来、ボストンとニューヨークでの研究生活、帰国後、大学や研究所において基礎免疫学に 100%の情熱を注ぐ。科学が「絶対的真理」に通じると確信していた。しかし、科学では暫定的な真理にしか到達しえないことに目覚める。「哲学への回心」を経験しつつ本格的にフランスで哲学という途方もない決断。凡そ 10 年間のソルボンヌ大学パリ・シテを中心とする修士課程と博士課程を修了して博士号授与として結実。「科学の形而上学化」の実践と思索を通して「わたしの真理」に至る。更に「絶対的真理」への飛翔を目指し、生の意味や多くの人のもとめる幸福の問題に辿り着く。

本書のなかで著者は特有の理論、「意識の三層構造」を論じ、その第三層こそが思考に重要として図式化している。それは思想の写像としても興味深く説得力がある。また著者が撮影した写真も数多く掲載され現実感を与えている。

また本書は出版後わずか 1 カ月余りだが、紀伊國屋書店新刊案内に取り上げられ、要旨、「古くは寺田寅彦、中谷宇吉郎、現代では福岡伸一など、名文家の誉れ高い科学者は少ないが、著者の静謐で流麗な文章は、読む者の心を捉えて離さない」と優れた名文家として高評価を受けている。

日本には哲学は存在しないとまでいわれるなか、2013 年著者が代表するサイファイ研究所 ISHE での知識挑戦を開始、本書をもとに日本思想史に金字塔を打ち立てるものと思いたい。

深津 亮

北大医学部同窓会新聞(2022.8.26)